

2004 年度博士前期課程（ソフトウェア情報学）論文

通信制高校における e ラーニング化の実践と評価
Practice and Evaluation of e-Learning at Correspondence High School

ソフトウェア情報学

2 3 1 2 0 0 3 0 0 3

猪貝 達弘

研究指導教員 鈴木 京明

研究指導教員 鈴木 京明

への動機付けを下げていると考え、添削指導を e ラーニング化することで、従来の個に応じた

要旨

本論文は、わが国で初めての通信制高校における添削指導 e ラーニング化のシステム及び教材の設計と開発、ならびに運用開始から 1 年半にわたる実践の効果について報告するものである。

要である添削指導部分を e ラーニング化した。これは通信制での学習において学習の継続が困難であることが問題であり、その原因としては在宅学習を生徒自らが続けていけない点にある。

そこで添削指導部分を e ラーニング化することで在宅学習を支援し学習を続けやすくすることを目指した。集合型の一斉授業スタイルと比較して、添削指導の利点は、個々の生徒に合わせ

た指導が可能なことである。しかし、生徒がレポートを提出してから教員が添削をし、再び生
2 週間を要する。この生徒がレポートを提出してからその結果を知るまでのタイムラグが学習
添削指導は大切にしながら、添削結果を早く返すことを実現し、学習効果の最大化と学習意欲、

への動機付けを下げていると考え、添削指導をeラーニング化することで、従来の個に応じた添削指導は大切にしながら、添削結果を早く返すことを実現し、学習効果の最大化と学習意欲、

動機付けを高めることとした。これに加え、マルチメディア教材によるダイナミックな学習展

based on activity analyses of students and teachers. IBM JAPAN did the development work on

が学羽幸徳と云い、主体的に学羽に取り組め、それを細い糸と比喩を垂けられ、そしてそれを一た

て、合計日 100 名限定に固執した。2004 年以降は 1 年合計日かつ云々と陳、主行日と限公開

講していく。1年目の運用では、生徒の満足度にシステムのパフォーマンスと教材の完成度の

定結果が得られた。2年目の運用では1年目に得られたデータをもとに評価し、導入教育を充

定和米が得られ穴長性を占げなうもなが平吉に得られ穴上とヲをもとに計品に、尊の我貞を久

実しシステムの冗長性を上げた。またパフォーマンス向上とコンテンツリリース前のチェック

して手軽さや即時フィードバックに次いで、学習情報の提供による自己管理やQ & Aなどの学

習支援が有効であることも分かった。さらに、教授方略に関わる教材配置の見直しやプリント

アウト版コンテンツの提供が学習効果を上げるために必要なことが明らかになった。

2004 年度の試験結果や単位認定結果などのデータも踏まえ郵送りレポートによる通信教育との比較から e ラーニングシステムの評価をし、通信高校生の在宅学習支援としての e ラーニングの効果や問題点などを明らかにする。

Figure 1: A line graph showing the relationship between the number of nodes (n) and the number of edges (m) for a path graph. The x-axis is labeled n and ranges from 1 to 10. The y-axis is labeled m and ranges from 0 to 10. The data points are $(1,0)$, $(2,1)$, $(3,2)$, $(4,3)$, $(5,4)$, $(6,5)$, $(7,6)$, $(8,7)$, $(9,8)$, and $(10,9)$. The points are connected by a line that starts at the origin and increases linearly until $n=5$, then continues as a horizontal line for $n=6$ to 10 .

Learning continuation at home has been a major challenge for the students in a correspondence

Learning continuation at home has been a major challenge for the students in a correspondence

reports. Initial design of the e-Learning system and instructional materials

year in introductory units and in the performance of the system. In addition, we introduced

effective as an advantage of e-Learning. Furthermore, it was found that there was a student

students were finally discussed, based on the first two years of experiences.